

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105644
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム あいじゆ
所在地	松山市東方町甲814-3
自己評価作成日	平成23年8月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①毎日リズム体操、リハビリ体操、足上げかかと上げ、に参加し健康維持に力を入れている。 ②利用者と一緒に壁面作りに取り組んでいる。 ③朝の脳トレ、数字合わせ、本、新聞読まれたり、読み聞かせ。 ④プチ美化運動に参加 地域の八幡神社清掃に出かけている。 ⑤支援マップを作成し利用者の把握に努め個別ケアに取り組んでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、利用者の想いに沿った個別ケアに取り組み、利用者が安心して楽しく生活できる環境を整えている。運営推進会議を通じて、地域の保育園との交流や地域行事への参加等を積極的に行っている。隣接する同法人の福祉施設は長年地域に根ざした活動をしており、地域住民にも信頼を得ている。また、災害対策を施設と協力しながら行っており、協同して避難訓練等に取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

事業所名	グループホーム あいじゅ
(ユニット名)	寿ユニット
記入者(管理者)	
氏名	大栄 幸枝
評価完了日	23年 8月 24日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員と話し合って決めた地域の中に一人でも多く入って交流を深めていけるよう支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者が地域の一員として生活する事ができるよう理念を掲げ支援に努めている。管理者や職員は積極的に地域の方と交流の機会を設け、利用者と共に参加している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の荏原公民館で開かれている行事は2階なので階段の上り下りが困難になって参加していない。文化祭、お祭り、みなみ保育園の来訪、お好み焼き平和の人達と顔なじみになり話もはずむ。プチ美化運動参加（地域の正八幡神社清掃活動）</p> <p>(外部評価) 利用者と近くの保育園の園児との交流は毎月継続して行われ、馴染みの関係になっており、大きな成果を得ている。また、プチ美化運動に毎月参加し神社の清掃活動を利用者と一緒に行い、地域に貢献し感謝されている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) みなみ保育園との交流の様子を発表したり、予防教室や推進会等で研修会を開き、一人でも多くの人に理解していただくよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催している近況報告や取組みのテーマ にそって話し合っている。社会福祉協議会の田中様に 来ていただき、防災について話していただいたり、参 加者の意見やアドバイスが得られサービスの向上に努 めている。	
			(外部評価) 地域の関係者や市職員、家族、職員等が参加しテーマ に沿って意見交換している。また、運営推進会議を利用 し、地域との交流や認知症についての研修等を行っ ている。	参加者から出された質問や意見、要望等がサービスの 向上に活かされるよう、議事録の書式や記録方法等を 検討し、実践できるよう今後の取組みに期待した い。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 推進会、事業者担当者会議を活用したり、社会福祉協 議会の方に相談や指導を受けている。	
			(外部評価) 市社会福祉協議会の職員から地域交流について助言を 受け、保育園との交流に取り組んだり、「想いマッ プ」の作成状況について評価してもらったりしてい る。また、市介護保険課の職員に運営推進会議で講演 してもらうなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束マニュアルを作成し、皆で取り組んでいる。 玄関入り口は日中開放しているが、ユニット入り口は 出る人が多いため、状況に応じて施錠している。	
			(外部評価) 帰宅願望がある利用者の状況によっては、ユニット出 入り口を施錠する場合もあるが、職員の見守りにより できる限り施錠しないよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員同士で虐待になっていないか、言葉での虐待になっていないか話し合い、注意しあっている。勉強会で「ちょっと待って」を減らすようにし、100%をめざすのではなく30%から増していくようにした。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者の中に成年後見人制度を利用されている人もいるので、勉強会を開き、皆で理解できるようにする。 (10月に勉強会を予定している)	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には契約書・重要事項について十分に説明を行い理解、納得して頂いたうえで契約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関ホールには苦情箱を設置している。 苦情が寄せられた場合にはマニュアルに沿って、速やかに対応回答を行う。法人全体としても要望苦情解決委員会を開催し、頂いた要望苦情が反映できるよう努めている。 面会時などに意見や要望を聞くようにしている。 (外部評価) 年2回、家族会を開催し親睦を図っている。家族等が利用料の支払いに事業所を訪れた際には、コミュニケーションを取るよう心掛け、利用者の心身の状態や変化についての情報を家族等に報告している。また、運営推進会議には家族も参加し意見等を運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員の意見を聞き、必要があれば主任会等で施設全体で話し合えるような仕組みになっている。 (外部評価) 管理者は業務の中でも職員とよく話し合い、働きやすい環境を整えるよう心がけている。毎月の勤務シフトを職員の希望を聞きながら組んでいる。職員も気付いたこと等は管理者に提案するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課制度に従い、評価を行い一人一人の個性や能力の把握に努めている。 職員が生き生きと誇りを持って働ける職場作りに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を増やしている。 研修発表の場をつくり、勉強会を開いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 石井・久谷地区のグループホーム連絡会での勉強会に参加しているが、相互訪問の機会が持っていない。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学の段階から本人様、家族様と話し合いながら本人の思いや不安を汲み取れるよう努めている。 入居後も安心して暮らせるよう寄り添いコミュニケーションを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族様との連絡を密にすることにより、家族の思い・不安・要望を聞きだし、それに沿って職員が尊厳を守りながらいい関係が出来るよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人、家族様の希望を聞き、法人全体、他業種の方々の意見を聞き、様々なサービス選択肢を提供し、一緒に考えるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) おやつ作り、工作、行事などについて色々話し合いながら、一緒に行う事により学ぶ事も多く、笑顔の絶えない暮らしが送れている。 おやつ作りを家族様に教えて頂きながら、一緒に作ったり楽しく過ごしている。(フルーツ入り蒸しパン)	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族様と一緒に行事やお誕生会に参加できるよう案内状を出したり、面会時に伺うなどしている。(夏祭り、クリスマス会) 3ヶ月に1回お手紙を送り、近況報告をしている。年に4回「あいじゅだより」を発行し、送っている。 毎月家族様によるミニコンサートや紙芝居をしていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用料の支払をあえて現金にし、面会を多くしたり、電話や通信等で交流が切れないよう支援している。法人内の行事へ参加することにより、異動した職員に会ったりして新たな馴染みの関係が出来ている。外出時には本人の馴染みの場所を訪ねたり、地域の人達に気軽に声をかけていただけるよう支援している。 (外部評価) 地域の保育園やボランティア等との新たな馴染みづくりの支援に努め、利用者が地域の中で生き生きと生活できる環境づくりに取り組んでいる。また、隣接する同法人の福祉施設の利用者等とも新たな関係が築けるよう交流を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人一人食堂、リビングでの座る席が決まっています、トラブルになることは少ないが、気分により口喧嘩になる事もあるので、職員が中に入り話題を変えたり、散歩を行ったりして対応している。 気の合う人が横におられるだけで安心される。 お茶の時間には職員と一緒に会話が弾み、笑いがありよい時間が過ごせている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後は電話でお話したり、地域の方では職員の知り合いの方もおられるので、様子を伺うことも出来ている。 推進会に参加して頂いている方もおられ、利用者の方も会えるのを楽しみにされている。 相談等にもものっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で中々見えてこない部分もあるが、「想いマップ」を作成することで、家族も知らなかったことが見えてきたり、本人の思いを皆で共有してプランに取り入れている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの希望や意向をよく聞き取り、家族や職員が情報共有できるよう「想いマップ」づくりを継続して行っている。思いや意向を伝えることが困難な場合は、利用者本位になるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族面会等、職員との会話の中で情報を聞き、申し送りノートや個人ケースに記録し共有している。 家族との信頼関係を大切にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人利用者に関わる中で心身状態、精神状態を24時間シートに書き入れ、職員同士で共有している。 バイタルチェックし健康面にも気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者及び家族、職員で一人ひとりの思いマップを作成し、そこからプランにつなげている。プランの評価も毎月行い3ヶ月後にはモニタリングを行い本人の要望に沿ったプランを作成し、実施している。 (外部評価) 利用者の個別介護記録は24時間シートを使って時系列で記録している。介護計画に沿った記録にはサービスの実施状況や利用者の様子、職員の対応等記載し、毎月行うカンファレンスでその記録を基にモニタリングを行い、計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) センター方式24時間シートを使って、日々の様子や精神状態を記録している。 職員間で共有しながらプランの評価も毎月行い、話し合っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設の事業所との連携を取りながら、意見交換を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) みなみ保育園との交流、正八幡神社の清掃活動、地域行事への参加等一人でも多く地域に出かけ、楽しい生活が送れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>入所時かかりつけ医の希望を聞いている。今までのか かりつけ医を希望される方もおられます。基本的には 家族対応だが、家族ではなかなか分からない事がある ので、看護師が同行することもあります。又、家族が 行けない場合は通院介助も行っています。協力医療機 関からの往診もあり、本人も家族も安心していただ けるよう支援しています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所の看護師と隣接する同法人の福祉施設の看護師 との連携も取れており、緊急時等の協力体制が構築さ れている。利用者希望の医療機関を受診時には、情報 提供してスムーズに受診できるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>ホームの看護師及び法人内の他事業所の看護師と連携 を取りながら健康管理を行っている。(24時間体制が 取れている)何かあれば主治医に相談し、早めの受診 をするようにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入院先の病院に面会に行ったり、家族に状態や移行を 聞いたり、看護主任さんにも確認している。 面会に行ったとき、皆で待っていることを伝えること により、安心して入院生活が送れるよう努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>面会時、家族会の時間聞いている。 最後はホームでと希望されていても、体調を崩され入 院となる。職員も毎日が看取りであることを自覚し、 最後まで皆と一緒に食事が出来るよう支援していきま す。見取りが出来るよう勉強会を開いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>看取りについての方針を家族会で議題にし、理解を深 めている。管理者は、利用者や家族等の希望や要望に 沿えるよう取り組みたいと考えている。現在まで事業 所として看取りを行った事例がないため、今後も看取 りに関する職員教育を実施していく予定である。</p>	利用者や家族等の希望や要望を理解したうえで、方針 を利用者や家族等に十分説明し、共有する事が必要で ある。事業所のできることを、できないことを把握し医 師や関係者、職員が連携しながら取り組んでいくよう 期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、緊急時の処置の仕方を法人内で消防署の指導を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、併設の事業所と一緒に行っている。ホーム内では毎年1回、避難経路や手順の確認を行っている。スプリンクラーも設置している。9月には地域の方、併設施設合同での風水害の訓練が予定されている。 (外部評価) 毎年、隣接する同法人の福祉施設と合同の避難訓練を実施し、協力関係を築いている。自主的に毎月、火災訓練等を行い利用者の安全確保に努めている。今後、地震や風水害等の訓練も予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ホームの理念にも掲げ、一人ひとりの尊厳を守り暖かい声かけに心がけている。居室に入るときはノックを行い、本人の許可を取って訪室するようにしている。個人情報やワーカースペースはシュレッターにかけて注意を払っている。 (外部評価) 職員全員で「ちょっと待つて」を減らす取り組みを行い、利用者の気持ちを大切にケアを心がけている。言葉遣い等で気になることは、職員同志で注意し合っている。個人情報についての取り扱いには十分注意し、利用に関しての同意書を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常の生活の中で出来るだけ本人の気持ちを大切にしている。声かけにも決め付けるような言葉かけをせず、あくまでも本人が納得して決めていただくようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1ヶ月の行事は法人内の車の調整が必要なので、空いた日に出かけるようにしている。散歩や病院の帰り、本人の希望があればAコープに買い物に寄ったりしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 移動美容室(月2回)利用されている。外出時の服は自分で選ばれたり、職員と一緒に選んでいる。時々、薄化粧され明るい笑顔が見られます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理は法人内の厨房で行っている。盛り付けは出来る人が少なくなった。おやつ作りはホームで利用者と職員と一緒に楽しみながら行っている。家族様から頂いたお芋を蒸したり、又外食に馴染みのお店に出かけることもある。 (外部評価) 食事は、隣接する同法人の福祉施設の管理栄養士が献立を立てており、福祉施設の厨房で調理されている。盛り付けのみ事業所で行っている。また、おやつ作りは利用者や家族と一緒にいき、楽しいコミュニケーションの場になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で個々の食事量、水分量を把握している。食事量の減った人は、食事形態を変えたり主治医と家族様と相談しながら対応している。日々の観察を怠らないようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時、毎食後の口腔ケアを行い終わったら、歯ブラシ・コップをよく洗浄し、乾燥機にかけて感染予防に努めている。介助の必要な人は支援している。歯や入れ歯の調子が悪いときは訪問歯科を利用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 誘導の必要な方はチェックしながら、排泄リズムを把握し声かけを行っている。紙パンツから布パンツで対応できるようになった人や、居室で放尿されていた方が誘導することにより気持ちの良い排泄がトイレで出来るようになった人もいる。</p> <p>(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握したり、きめ細やかな誘導を行う等、排泄の自立支援に力を入れている。夜間のトイレ誘導、ポータブル介助によりオムツの使用を減らすよう努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) ケアチェック表で排便を確認している。便秘の方には水分補給、散歩を取り入れたり、本人希望でバナナを購入したりしている。又主治医に相談しながら下剤でコントロールを行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 健康状態に異常のない方は、いつでも入浴できるようにしている。一人入浴槽で職員で見守り介助を行いゆっくり入ってもらっている。車椅子の方は二人対応を徹底し、安全面に気を付けている。入りたがらない人は日を変えたり声かけに工夫して支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者の健康状態に合わせて入浴を行っている。入浴時間は午後からになっているが、ゆっくり楽しく入浴できるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 夜間はほとんどの方が良眠されている。眠れなかったり本人の希望で昼寝をしたい方は休んでもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬、飲み忘れをしないようにチェックしている。服薬時には職員同士声を出して確認、本人にも確認して伸張に行っている。薬の変更は申し送りノートを利用し周知徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個別に支援マップを作成し、楽しみや好きなもの生活歴を聞きながら自分の役割を見つけ支援していきながら、楽しみや達成感を体験していただき、次へのステップにつなげていけるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の希望を聞き、計画を立てている。全員が外出できるよう2回に分けて支援している。併設での行事、ポケ観音様にお参りも目標になっている。家族様の協力もあり外出される方もおられます。	
			(外部評価) 利用者の希望を取り入れドライブや外食を計画し、楽しく外出できるよう支援をしている。隣接する同法人の福祉施設のぼけ地蔵をお参りしたり、近隣を散歩する等日常の外出も行っている。また、施設の行事等に参加することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお小遣いを所持し支払われている方もおられます。家族様と話し合い、こちらで預かっている方もおられます。可能な限りご自分で支払いが出来るように見守りを行っています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 請求書を送る時に3ヶ月に1回お手紙を入れたり年賀状が出せるよう支援しています。電話は本人希望があれば支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が集まるリビングにはソファを用意し、皆でテレビを観たり、お話が出来るようにしている。玄関ホール、食堂にはちぎり絵、塗り絵等で季節感を取り入れている。西側にはよしずで日よけを行っている。エアコンで湿度調節を行っている。	
			(外部評価) 全室日当たり良く、窓からは山里の景色を望むことができ季節を感じて過ごすことができる。リズム体操や地域のボランティアの訪問、レクリエーション等、利用者が楽しく過ごすことができるよう工夫されており、利用者がユニット間を自由に行き来できるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂、リビングソファもそれぞれ自分の安心できる居場所があり、テレビを観たりお話をされたり家族様と職員との会話の居場所になっている。ほとんどの人が居室から出られ、食堂かリビングで過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで使っていたベッド、布団、たんす、車椅子を持ち込んでいただき、家庭的に馴染みの物があることで安心して暮らしていただけるように努めている。	
			(外部評価) 利用者が自宅で使っていた家具や好みのものが持ち込まれ個性的な居室づくりがされている。家族との記念写真を毎年撮影し部屋に飾る等、安心して過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の出来ることをして頂き「やる気」を起こさせる声かけを行ったり、「トイレにはノックをしてから開けるように」と分かりやすく書いて貼っている。安全面に気をつけ少しでも自立した生活が送れるよう工夫している。毎朝、脳トレ（数字合わせ・新聞読み・朗読）自分でできる事を自主的にされている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105644
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム あいじゆ
所在地	松山市東方町甲814-3
自己評価作成日	平成23年8月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1.毎日リズム体操、リハビリ体操、足上げ、かかと上げに参加し、健康維持に力を入れている。 2.利用者と一緒に壁面作りに取り組んでいる。 3.プチ美化運動。地域の神社清掃活動に出かけている。 4.支援マップを作成し、利用者の把握に努め、個別ケアに取り組んでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者と職員は、利用者の想いに沿った個別ケアに取り組み、利用者が安心して楽しく生活できる環境を整えている。運営推進会議を通じて、地域の保育園との交流や地域行事への参加等を積極的に行っている。隣接する同法人の福祉施設は長年地域に根ざした活動をしており、地域住民にも信頼を得ている。また、災害対策を施設と協力しながら行っており、協同して避難訓練等に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あいじゅ

(ユニット名) 愛ユニット

記入者(管理者)

氏名 青野 淑子

評価完了日 23年 8月 24日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員と話し合って決めた地域の中に一人でも多く入って交流を深めていけるよう支援を行っている。	
			(外部評価) 利用者が地域の一員として生活する事ができるよう理念を掲げ支援に努めている。管理者や職員は積極的に地域の方と交流の機会を設け、利用者と共に参加している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の荏原公民館で開かれている行事は2階なので階段の上り下りが困難になって参加していない。文化祭、お祭り、みなみ保育園の来訪、お好み焼き平和の人達と顔なじみになり話もはずむ。プチ美化運動参加（地域の正八幡神社清掃活動）	
			(外部評価) 利用者と近くの保育園の園児との交流は毎月継続して行われ、馴染みの関係になっており、大きな成果を得ている。また、プチ美化運動に毎月参加し神社の清掃活動を利用者と一緒に行い、地域に貢献し感謝されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) みなみ保育園との交流の様子を発表したり、予防教室や推進会等で研修会を開き、一人でも多くの人に理解していただくよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催している近況報告や取り組みのテーマ にそって話し合っている。社会福祉協議会の田中様に 来ていただき、防災について話していただいたり、参 加者の意見やアドバイスが得られサービスの向上に努 めている。	
			(外部評価) 地域の関係者や市職員、家族、職員等が参加しテーマ に沿って意見交換している。また、運営推進会議を利用 し、地域との交流や認知症についての研修等を行っ ている。	参加者から出された質問や意見、要望等がサービスの 向上に活かされるよう、議事録の書式や記録方法等を 検討し、実践できるよう今後の取り組みに期待した い。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 推進会、事業者担当者会議を活用したり、社会福祉協 議会の方に相談や指導を受けている。	
			(外部評価) 市社会福祉協議会の職員から地域交流について助言を 受け、保育園との交流に取り組んだり、「想いマッ プ」の作成状況について評価してもらったりしてい る。また、市介護保険課の職員に運営推進会議で講演 してもらうなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束マニュアルを作成し、皆で取り組んでいる。 玄関入り口は日中開放しているが、ユニット入り口は 出る人が多いため、状況に応じて施錠している。	
			(外部評価) 帰宅願望がある利用者の状況によっては、ユニット出 入り口を施錠する場合もあるが、職員の見守りにより できる限り施錠しないよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員同士で虐待になっていないか、言葉での虐待になっていないか話し合い、注意しあっている。勉強会で「ちょっと待って」を減らすようにし、100%をめざすのではなく30%から増していくようにした。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者の中に成年後見人制度を利用されている人もいるので、勉強会を開き、皆で理解できるようにする。 (10月に勉強会を予定している)	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には契約書・重要事項について十分に説明を行い理解、納得して頂いたうえで契約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関ホールには苦情箱を設置している。 苦情が寄せられた場合にはマニュアルに沿って、速やかに対応回答を行う。法人全体としても要望苦情解決委員会を開催し、頂いた要望苦情が反映できるよう努めている。 面会時などに意見や要望を聞くようにしている。 (外部評価) 年2回、家族会を開催し親睦を図っている。家族等が利用料の支払いに事業所を訪れた際には、コミュニケーションを取るよう心掛け、利用者の心身の状態や変化についての情報を家族等に報告している。また、運営推進会議には家族も参加し意見等を運営に反映している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員の意見を聞き、必要があれば主任会等で施設全体で話し合えるような仕組みになっている。 (外部評価) 管理者は業務の中でも職員とよく話し合い、働きやすい環境を整えるよう心がけている。毎月の勤務シフトを職員の希望を聞きながら組んでいる。職員も気付いたこと等は管理者に提案するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課制度に従い、評価を行い一人一人の個性や能力の把握に努めている。 職員が生き生きと誇りを持って働ける職場作りに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を増やしている。 研修発表の場をつくり、勉強会を開いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 石井・久谷地区のグループホーム連絡会での勉強会に参加しているが、相互訪問の機会が持っていない。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学の段階から本人様、家族様と話し合いながら本人の思いや不安を汲み取れるよう努めている。 入居後も安心して暮らせるよう寄り添いコミュニケーションを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族様との連絡を密にすることにより、家族の思い・不安・要望を聞きだし、それに沿って職員が尊厳を守りながらいい関係が出来るよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人、家族様の希望を聞き、法人全体、他業種の方々の意見を聞き、様々なサービス選択肢を提供し、一緒に考えるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) おやつ作り、工作、行事などについて色々話し合いながら、一緒に行う事により学ぶ事も多く、笑顔の絶えない暮らしが送れている。 おやつ作りを家族様に教えて頂きながら、一緒に作ったり楽しく過ごしている。(フルーツ入り蒸しパン)	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族様と一緒に行事やお誕生会に参加できるよう案内状を出したり、面会時に伺うなどしている。(夏祭り、クリスマス会) 3ヶ月に1回お手紙を送り、近況報告をしている。年に4回「あいじゅだより」を発行し、送っている。 毎月家族様によるミニコンサートや紙芝居をしていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用料の支払をあえて現金にし、面会を多くしたり、電話や通信等で交流が切れないよう支援している。法人内の行事へ参加することにより、異動した職員に会ったりして新たな馴染みの関係が出来ている。外出時には本人の馴染みの場所を訪ねたり、地域の人達に気軽に声をかけていただけるよう支援している。 (外部評価) 地域の保育園やボランティア等との新たな馴染みづくりの支援に努め、利用者が地域の中で生き生きと生活できる環境づくりに取り組んでいる。また、隣接する同法人の福祉施設の利用者等とも新たな関係が築けるよう交流を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人一人食堂、リビングでの座る席が決まっています、トラブルになることは少ないが、気分により口喧嘩になる事もあるので、職員が中に入り話題を変えたり、散歩を行ったりして対応している。 気の合う人が横におられるだけで安心される。 お茶の時間には職員と一緒に会話が弾み、笑いがありよい時間が過ごせている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後は電話でお話したり、地域の方では職員の知り合いの方もおられるので、様子を伺うことも出来ている。 推進会に参加して頂いている方もおられ、利用者の方も会えるのを楽しみにされている。 相談等にもものっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で中々見えてこない部分もあるが、「想いマップ」を作成することで、家族も知らなかったことが見えてきたり、本人の思いを皆で共有してプランに取り入れている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの希望や意向をよく聞き取り、家族や職員が情報共有できるよう「想いマップ」づくりを継続して行っている。思いや意向を伝えることが困難な場合は、利用者本位になるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族面会等、職員との会話の中で情報を聞き、申し送りノートや個人ケースに記録し共有している。 家族との信頼関係を大切にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人利用者に関わる中で心身状態、精神状態を24時間シートに書き入れ、職員同士で共有している。 バイタルチェックし健康面にも気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者及び家族、職員で一人ひとりの思いマップを作成し、そこからプランにつなげている。プランの評価も毎月行い3ヶ月後にはモニタリングを行い本人の要望に沿ったプランを作成し、実施している。	
			(外部評価) 利用者の個別介護記録は24時間シートを使って時系列で記録している。介護計画に沿った記録にはサービスの実施状況や利用者の様子、職員の対応等記載し、毎月行うカンファレンスでその記録を基にモニタリングを行い、計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) センター方式24時間シートを使って、日々の様子や精神状態を記録している。 職員間で共有しながらプランの評価も毎月行い、話し合っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設の事業所との連携を取りながら、意見交換を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) みなみ保育園との交流、正八幡神社の清掃活動、地域行事への参加等一人でも多く地域に出かけ、楽しい生活が送れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>入所時かかりつけ医の希望を聞いている。今までのか かりつけ医を希望される方もおられます。基本的には 家族対応だが、家族ではなかなか分からない事がある ので、看護師が同行することもあります。又、家族が 行けない場合は通院介助も行っています。協力医療機 関からの往診もあり、本人も家族も安心していただ けるよう支援しています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所の看護師と隣接する同法人の福祉施設の看護師 との連携も取れており、緊急時等の協力体制が構築さ れている。利用者希望の医療機関を受診時には、情報 提供してスムーズに受診できるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>ホームの看護師及び法人内の他事業所の看護師と連携 を取りながら健康管理を行っている。(24時間体制が 取れている)何かあれば主治医に相談し、早めの受診 をするようにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入院先の病院に面会に行ったり、家族に状態や移行を 聞いたり、看護主任さんにも確認している。 面会に行ったとき、皆で待っていることを伝えること により、安心して入院生活が送れるよう努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>面会時、家族会の時間聞いている。 最後はホームでと希望されていても、体調を崩され入 院となる。職員も毎日が看取りであることを自覚し、 最後まで皆と一緒に食事が出来るよう支援していきま す。見取りが出来るよう勉強会を開いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>看取りについての方針を家族会で議題にし、理解を深 めている。管理者は、利用者や家族等の希望や要望に 沿えるよう取り組みたいと考えている。現在まで事業 所として看取りを行った事例がないため、今後も看取 りに関する職員教育を実施していく予定である。</p>	利用者や家族等の希望や要望を理解したうえで、方針 を利用者や家族等に十分説明し、共有する事が必要で ある。事業所のできる事、できないことを把握し医 師や関係者、職員が連携しながら取り組んでいくよう 期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、緊急時の処置の仕方を法人内で消防署の指導を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、併設の事業所と一緒に行っている。ホーム内では毎年1回、避難経路や手順の確認を行っている。スプリンクラーも設置している。9月には地域の方、併設施設合同での風水害の訓練が予定されている。 (外部評価) 毎年、隣接する同法人の福祉施設と合同の避難訓練を実施し、協力関係を築いている。自主的に毎月、火災訓練等を行い利用者の安全確保に努めている。今後、地震や風水害等の訓練も予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ホームの理念にも掲げ、一人ひとりの尊厳を守り暖かい声かけに心がけている。居室に入るときはノックを行い、本人の許可を取って訪室するようにしている。個人情報やワーカースペースはシュレッターにかけて注意を払っている。 (外部評価) 職員全員で「ちょっと待つて」を減らす取り組みを行い、利用者の気持ちを大切にケアを心がけている。言葉遣い等で気になることは、職員同志で注意し合っている。個人情報についての取り扱いには十分注意し、利用に関しての同意書を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常の生活の中で出来るだけ本人の気持ちを大切にしている。声かけにも決め付けるような言葉かけをせず、あくまでも本人が納得して決めていただくようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1ヶ月の行事は法人内の車の調整が必要なので、空いた日に出かけるようにしている。散歩や病院の帰り、本人の希望があればAコープに買い物に寄ったりしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 移動美容室(月2回)利用されている。外出時の服は自分で選ばれたり、職員と一緒に選んでいる。時々、薄化粧され明るい笑顔が見られます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理は法人内の厨房で行っている。盛り付けは出来る人が少なくなった。おやつ作りはホームで利用者と職員と一緒に楽しみながら行っている。家族様から頂いたお芋を蒸したり、又外食に馴染みのお店に出かけることもある。 (外部評価) 食事は、隣接する同法人の福祉施設の管理栄養士が献立を立てており、福祉施設の厨房で調理されている。盛り付けのみ事業所で行っている。また、おやつ作りは利用者や家族と一緒にいき、楽しいコミュニケーションの場になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で個々の食事量、水分量を把握している。食事量の減った人は、食事形態を変えたり主治医と家族様と相談しながら対応している。日々の観察を怠らないようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時、毎食後の口腔ケアを行い終わったら、歯ブラシ・コップをよく洗浄し、乾燥機にかけて感染予防に努めている。介助の必要な人は支援している。歯や入れ歯の調子が悪いときは訪問歯科を利用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 誘導の必要な方はチェックしながら、排泄リズムを把握し声かけを行っている。紙パンツから布パンツで対応できるようになった人や、居室で放尿されていた方が誘導することにより気持ちの良い排泄がトイレで出来るようになった人もいる。</p> <p>(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握したり、きめ細やかな誘導を行う等、排泄の自立支援に力を入れている。夜間のトイレ誘導、ポータブル介助によりオムツの使用を減らすよう努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) ケアチェック表で排便を確認している。便秘の方には水分補給、散歩を取り入れたり、本人希望でバナナを購入したりしている。又主治医に相談しながら下剤でコントロールを行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 健康状態に異常のない方は、いつでも入浴できるようにしている。一人入浴槽で職員で見守り介助を行いゆっくり入ってもらっている。車椅子の方は二人対応を徹底し、安全面に気を付けている。入りがらない人は日を変えたり声かけに工夫して支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者の健康状態に合わせて入浴を行っている。入浴時間は午後からになっているが、ゆっくり楽しく入浴できるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 夜間はほとんどの方が良眠されている。眠れなかったり本人の希望で昼寝をしたい方は休んでもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬、飲み忘れをしないようにチェックしている。服薬時には職員同士声を出して確認、本人にも確認して伸張に行っている。薬の変更は申し送りノートを利用し周知徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個別に支援マップを作成し、楽しみや好きなもの生活歴を聞きながら自分の役割を見つけ支援していきながら、楽しみや達成感を体験していただき、次へのステップにつなげていけるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の希望を聞き、計画を立てている。全員が外出できるよう2回に分けて支援している。併設での行事、ポケ観音様にお参りも目標になっている。家族様の協力もあり外出される方もおられます。 (外部評価) 利用者の希望を取り入れドライブや外食を計画し、楽しく外出できるよう支援をしている。隣接する同法人の福祉施設のぼけ地蔵をお参りしたり、近隣を散歩する等日常の外出も行っている。また、施設の行事等に参加することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお小遣いを所持し支払われている方もおられます。家族様と話し合い、こちらで預かっている方もおられます。可能な限りご自分で支払いが出来るように見守りを行っています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 請求書を送る時に3ヶ月に1回お手紙を入れたり年賀状が出せるよう支援しています。電話は本人希望があれば支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居者が集まるリビングにはソファを用意し、皆でテレビを観たり、お話ができるようにしている。玄関ホール、食堂にはちぎり絵、塗り絵等で季節感を取り入れている。西側にはよしずで日よけを行っている。エアコンで湿度調節を行っている。</p> <p>(外部評価) 全室日当たり良く、窓からは山里の景色を望むことができ季節を感じて過ごすことができる。リズム体操や地域のボランティアの訪問、レクリエーション等、利用者が楽しく過ごすことができるよう工夫されており、利用者がユニット間を自由に行き来できるようにしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 食堂、リビングソファもそれぞれ自分の安心できる居場所があり、テレビを観たりお話されたり家族様と職員との会話の居場所になっている。ほとんどの人が居室から出られ、食堂かリビングで過ごされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 今まで使っていたベッド、布団、たんす、車椅子を持ち込んでいただき、家庭的に馴染みの物があることで安心して暮らしていただけるように努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者が自宅で使っていた家具や好みのものが持ち込まれ個性的な居室づくりがされている。家族との記念写真を毎年撮影し部屋に飾る等、安心して過ごせるよう工夫されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者の出来ることをして頂き「やる気」を起こさせる声かけを行ったり、「トイレにはノックをしてから開けるように」と分かりやすく書いて貼っている。安全面に気をつけ少しでも自立した生活が送れるよう工夫している。</p>	